

東陽中だより

教育目標 ～明日を拓く～
・豊かな心 ・活きた知性 ・たくましい体
発行責任者 小野寺 憲治
文 責 佐々木 正道
発行日 平成29年3月24日

1年を振り返って

校長 小野寺憲治

3月11日、天候は快晴でした。生徒たちの卒業を祝福するような澄み切った青空の下、134名が巣立っていきました。私は幾度となく卒業式を経験していますが明るく晴れやかな卒業式もいいものです。この日の卒業生は、3年間という生活を振り返り、恐らく走馬燈のように自身が歩んだ約一千日強の学校生活を思い出していたのでしょう。多くの女子生徒が鼻をすすり、涙を浮かべる卒業式となりました。胸に込み上げるものがありこれもまた感動的でした。

今年の卒業生は多くの成果と成長を遂げての巣立ちとなりました。また、送る立場の在校生も儀式的行事に相応しい態度で臨み、約1時間半の内容でしたが立派にその役割を果たしていました。4月からは後輩が入学して来ることになりますが、それぞれに最上級生、2学年になるという自覚が芽生え始めているようです。

1年を顧みますと学年・学校行事等にはクラスや学年が一丸となり妥協を許さない、それぞれの取組が思い出されます。体育祭では、長縄跳びや学年リレーにおいてたくさんの練習を行い、本番に備えて一致団結しながらの精一杯の活動に感動しました。学校祭では、合唱がどの学級も素晴らしく、パートリーダーを中心に日に日にまとまりながら成長していく学級の団結力にたくましさを感じました。練習段階からの取組を見ていたため、優劣を付けることに苦しさを感じたくらいです。それくらいどの学級も感動に溢れた合唱を創りあげ、歓喜とどよめきの中での成績発表となりました。そして、2学期後半からは、進路が決定し志望校突破を目指して放課後学習に多くの生徒が参加し努力していました。また、面接試験に向けて互いに試験官役となり、自身が納得いくまで何度も何度も繰り返し練習に励みました。妥協することなく互いに指摘し合い、切磋琢磨する姿に真剣さが伺え賞賛に値するものでした。そんな中から強い絆が生まれたことも確かでした。卒業生には、夢と目標を持ち続け、高校生活を大いに楽しみ、自分の確かな将来を自分の手で掴んでもらいたいと期待しています。

学校は毎年、確かな成長を遂げ学び舎を去って行く生徒を見送り続けています。中学校への入学から僅か3年間で心身共に大きく成長する生徒を見るにつけ、中学校教育の大切さを改めて感じさせられます。そして多くの教職員は、教師で良かった。生徒と共に成長できる教師でありたいと感じ、さらに次年度に向け意欲を掻き立てる時でもあります。

最後に、保護者、地域の皆様には、学校に対しましてお寄せいただきました一年間のご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。また、次年度におきましても今年度と同様にご支援とご協力を賜りますようお願いを申し上げましてお礼といたします。
ありがとうございました。

同窓会入会式



〈式辞：同窓会長 江尻 龍誠 様〉



〈記念品贈呈〉



〈誓いの言葉〉